

## 就職活動に奮闘する女子学生へー中国女性学からのメッセージ 大浜 慶子（中国）

2月、中国の大学生の就職戦線が山場を迎える。中国でも日本と同様に新卒一括採用制度が実施されており、面接試験会場に列をなす女子学生の面持ちはどこことなく張りつめている。今年の新卒者は2007年度入学で、この年は熾烈な受験戦争に勝ち上がり、各省の大学入試で「状元」（トップの成績を挙げた者）となった女子学生比率が7割にも達し、高等教育大衆化時代における女子学生の勢いを印象づけた。学業では勝ち組の彼女たちも、しかし就職活動では負け組に転落し、苦戦を強いられている。

全国婦女連の調査報告によると、今年就職活動に臨んだ9割以上の女子学生が、いわれない性差別を感じたという。平均すると9回の応募でやっと一通の採用試験の通知が届き、44回の応募でようやく一社の内定がもらえる。履歴書の投函数や就職活動にかかる時間、費用、忍耐力といった点からも女子学生は男子学生より多くの代価を払わねばならないが、就職の機会はなかなか得られない。ほとんどが就職選びの基準を下げることを余儀なくされている。一人っ子として家族に大事に育てられ、一生懸命勉強すれば必ず報われると信じ、恐れを知らずにきた彼女たちが、実社会への巣立ちを目前にこれまでに経験したことのない大きな失望感と挫折感を味わっている。その反動から、就活を婚活へ切り替える「卒婚族」も急増し、女子大生向け「卒婚」対策に乗り出す省もあるほどだ。

女子学生就職難の現象は、国家が統一計画に基づいて大学生の就職先を割り振っていた時代から大学生自ら人材市場に参入し職探しを行う制度への転換とともに顕在化してきた。主因は市場合理性の追求により、結婚出産で採算の取れない女性に対し、労働力市場からの閉め出しが行われたことにあるが、高等教育と産業構造の発展の不均衡も指摘されている。今年の大学の卒業生は660万人、年々拡大する大卒者の雇用問題は中国政府にとっても大きな圧力となっている。特に近年、女子の大学進学率の伸びはめざましく、在学生総数の半数を占めるに至り、高学歴女性の安定的雇用の受け皿として期待される第三次産業やサービス業が十分に成熟していないといった問題がある。このほか、大学の学部学科構成が変化の激しい労働力需給動向に追いついていないという批判もめだつ。数年前より幼稚園不足が社会問題へと発展したが、幼児教育に従事する女性専門職の育成を進めてこなかったことが起因という指摘はその例証となる。

また今年の大学生の人気職業のトップは公務員（男子）、教師（女子）である。リーマンショック以降、中国の若者の職業観は内向きになりつつある。

このような状況を反映してか、中国の大学では女性学講座が見直され、注目を浴びている。最新版の高等教育用教材『女性学基礎』（胡黄卿編著 化学工業出版社 2010年発行）を開いてみると、実用的な内容が多く盛り込まれていてとても新鮮に感じた。「女子学生の求職の心構え」、「履歴書作成の注意点」、「面接試験に当たっての注意事項」など、女子学生向け就職対策ハウツー本の役目も果たしているのである。

著者は「女子大生の就職」の章の中で、最近女性の中で保守化が強まり、受け身になりがちな傾向に省察を促しながら、社会という大海原に漕ぎ出す女子大生たちに繰り返しエールを送っている。

—就職活動はこれからますます厳しくなるでしょう。挫折はつきものであり、決してあきらめないであなたの意志と能力を磨く絶好のチャンスと捉え、コア競争力を身につける努力をしなければなりません。それは切り開く能力であり、幅広い知識と確かな専門技量に裏付けられ、高いモラルと責任感、そして職業開拓の情熱をもって時流に左右されない本物の、これからずっとあなた自身を支え続ける力を養っていかねばならないのです。

この中国女性学のメッセージは同時に就職活動を控えた日本の女子学生も励ますことだろう。